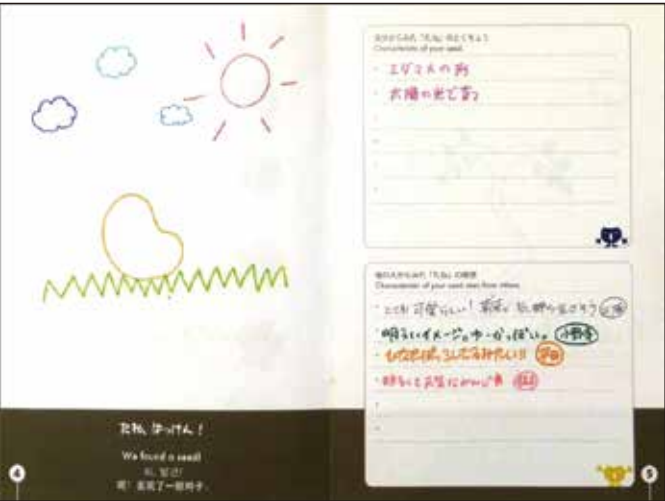


【事例①】女子校高校生 Y.E さんの 1 年前と今の「じっとみて。」（仙台ランチ・梅鉢屋）

背景
東日本大震災で家が流され、家族全員で仙台へ引っ越してきた女子高校生。仲の良かったいとこ3人を津波で失い、味わったことの無い喪失感と不安でたまらない思いでつぶされそうな日々をすすも、みんなの前では無理矢理笑顔で取り繕い、気丈に振舞う。
この作品は、震災後の2年目と3年目に作成したもの。ゆっくりした時の流れを感じさせつつ温かな空気が表現されている絵本である。
安穩と暮らす私たちに「生きるとは何か」という難問を提起しているようだ。

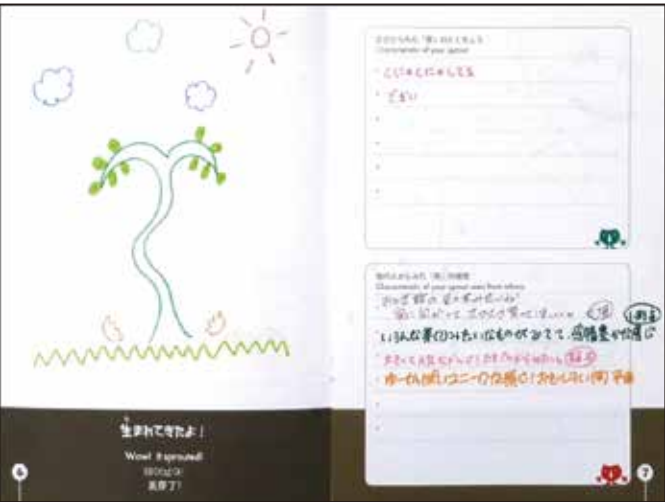
1回目(2013.12)

第1シーン【タネ】



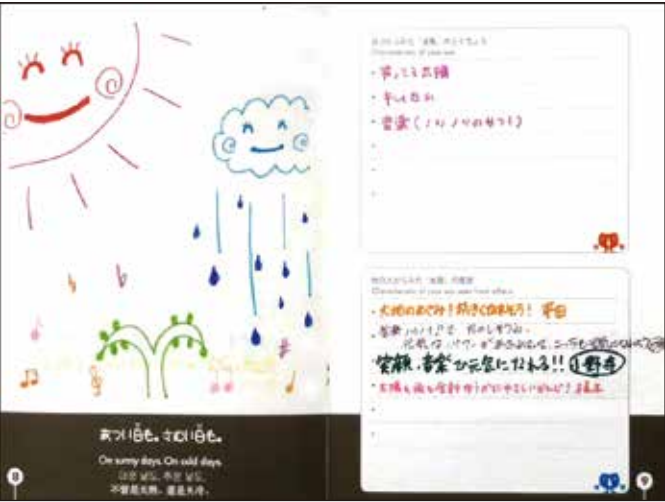
柔らかな草原の上で温かな風に吹かれて気持ち良さそうなタネが描かれている。

第2シーン【芽】



自らの殻を破りたくましく成長している芽を描いている。茎が曲折し、二股に分かれているのは人生の岐路を感じた証拠か。

第3シーン【栄養】



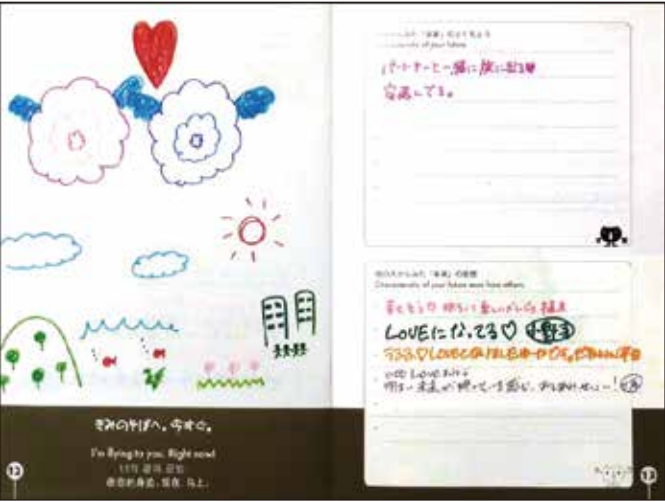
気分を湿らせる雨をも成長の糧として積極的に受け止めている。笑顔で自らを見守る太陽や雨は作者の両親だろうか。

第4シーン【花】



4人に見守られて大輪の花を咲かせている。この4人は家族か。曲がりくねった茎はまっすぐに伸び、等間隔の枝葉はこれからの成長過程なのだろう。

第5シーン【未来】



人生の伴侶と手を取り合う未来像が描かれている。ふたりを見守る4人は家族だろう。初めて描かれた穏やかな海は辛い経験を乗り越えるぞという意思表示と受け止めたい。

2回目(2014.12)

第1シーン【タネ】



タネは草原の地中に移動。小さな心を持ち、より能動的な自分を表現している。

第2シーン【芽】



地中でもがき苦しみ、それでも地上に芽を出そうとする強固な意志を感じさせる。「心の奥の苦しみを知って欲しい」というメッセージ性が見る人の心を捉える。

第3シーン【栄養】



太陽や雨に加えて風や友達、笑顔が描かれている。地上に出た芽には心（ハート）が描かれている。これはしっかりと意思をもって成長するぞという作者の思考と決意が現れていると思われる。

第4シーン【花】



自らの成長度合いがさらに大きくなっている。多くの人に見守られるほどの高さ、大きさを表現。宇宙をも超えるその花からは何が見えるのだろう。

第5シーン【未来】



自らが残すタネはそれを受け止める多くの人たちを笑顔にしている。世界中に幸せのタネを蒔いて欲しいと願う。人間の原点に立ち返せられる秀逸なシーン。